

整形外科外来だより

No.7 2006/05/01 けいゆう病院 整形外科 発行

◆開業の先生方と連携を進めています◆

けいゆう病院は以前より地域の開業医の先生方や病院、診療所と患者さんの診断、治療の連携を進めてまいりました。簡単な処置やリハビリは通院し易い近所の診療所のほうが時間効率がよく、あまり待たないで治療を受けられると思います。ご希望の方は遠慮なく医師、看護師、事務員にお申し出下さい。

◆内視鏡手術のお話◆

最近テレビなどでも内視鏡手術の話題をよく見かけるようになりました。また、4月の保険改訂で整形外科領域でも新しい手術術式として認められました。

内視鏡手術は実はかなり古い歴史があります。整形外科では膝の関節鏡手術、泌尿器科では膀胱の手術が何十年も前から行われております。初期の内視鏡では光源として懐中電灯に使われているようなマメ電球を用いていたために関節内や膀胱内で電球が外れて落ちてしまい大変な手間隙がかかった事があるようです。腹部の手術では外科、婦人科ともかなり普通に行われるようになり多くの病院で行われていると思われれます。

当院では外科がかなりの手術を内視鏡で行っていますが、整形外科では膝の関節鏡手術が内視鏡手術の中心です。担当の森山先生は経験も豊富で半月板損傷の手術はもとより、技術的には難しい靭帯損傷の手術もスムーズに行うことができます。

その他には股関節の疾患に行っています。股関節はまだ全国的にも始まったばかりですが、担当の千葉先生は先駆的に行っていて、予想外によい成績を出しています。もちろんまだまだ可能な対象疾患は限られています。これまでなら大きく切らなければならなかったような病気も小さな切開で済むようになりました。

最近特に話題になっているのが腰椎椎間板ヘルニアの手術でしょうか。当院でも導入計画はありますが、手技の安全性がまだまだ確立されていない割には得られるメリットが少ないので今後の宿題として現在取り組んでいます。全国的には30%ぐらいの病院で導入が始まっています。

しかしながら慈恵医大の手術で問題になったように、先進的な技術を求めすぎるあまり安全性がなおざりになるのは医療の本質から外れることとなります。当院では安全第一でやっていますが、内視鏡手術が優っているケースもありますので、内視鏡手術をご希望の場合はご遠慮なく主治医にお申し出下さい。(文責 鎌田修博)